

第一回 あるかぼーと・唐戸エリアマスタープラン推進会議 議事録

日時	2023年5月26日(金) 17:00~18:15
場所	市役所 本庁舎西棟5階 大会議室
参加者(委員)	下関市 前田市長 下関商工会議所 川上会頭 株式会社山口フィナンシャルグループ 代表取締役社長 一般社団法人下関観光コンベンション協会 富永会長 株式会社星野リゾート 星野代表 一般社団法人下関21世紀協会 中野専務理事(井上委員代理) 協同組合唐戸商店会 山口理事長 國學院大學 梅川教授 公立大学法人下関市立大学 杉浦副学長

1. 開会

2. 下関市長挨拶

前田委員長 ついに今日の日を迎えることができました。大変多くの皆さまのご協力を得て、あるかぼーと・唐戸エリアマスタープラン推進会議のキックオフとなります。星野代表はじめ星野リゾートの皆さまにも大変なお力をいただいていたところ、また、川上会頭、棕梨社長はじめ地域・地域経済の皆さま方に万難を排してご参加いただいたこと、厚く御礼を申し上げます。

思い起こせば下関市として、この関門エリアの発展に向け、長きにわたり幾度となくチャレンジをしてきた。昭和の時代から計画を立てて、平成11年及び20年に民間事業者の公募をかけ、この1回目2回目はなかなか上手くいかず、平成30年に3度目のチャレンジとして、市として公募により広く募った結果、星野さんに手を上げていただき、令和7年秋には素晴らしい「リゾナーレ」を建設いただく予定となり、その周辺のまちづくりについても、みんなでやっという、昨年、マスタープランの発表をいただいたときには、「それは絵に描いた餅ではなくて、事業として実現する推進会議体制を作らなければならない。そしてその中に、私自身も参加する」と言っていただいた。その瞬間に、我々はトップギアに、市役所も全庁をあげて取り組んでまいり、また今日は、後ほど発表になるが、推進会議に関わる事業者の皆さまにも、これまで大変なお力をいただいていた準備を重ねてきた。

市民の皆さんが下関を誇れる、素晴らしい輝かしいエリア、ウォーターフロントを世界に向けて発信していく、日本国内でも最高のウォーターフロントエリアを作っていくんだ、この気持ちを今日の会議でさらに一段階レベルを上げて、みなさんとともに中期・長期時間をかけながら、丁寧にそしてスピード感を持って、取り組んでいきたい。今日のご参加ありがとうございます。これからもご指導お願いします。

3. 委員紹介

司会より順次委員を紹介。以下、委員より挨拶。

川上委員 本日は待ちに待った第一回のキックオフミーティング。星野代表、梅川先生という外部学識者・有識者をお迎えして、下関が生まれ変わる一つのきっかけとなればと思っている。

棕梨委員 本日はこのような会議に参加させていただき感謝。春夏秋冬、四季を通じて愛され、人々が集まるまちになれば良いと思うし、そうした観点から意見を言っていきたい。

富永委員 関門海峡は歴史の転換期になるたびに表舞台に立ってきた。日本中が注目するエリアだと思う。観光コンベンション協会としても、ぜひともこの場所が開発されることで多くの交流人口が増えることを期待しながら勉強させていただきたい。

星野代表 ちょうどコロナが終わり、観光が2019年に戻ろうとしているとき、世界の観光は、2019年に戻るのをやめようということで新しい姿を目指し始めている。「ステークホルダーツーリズム」と呼ばれる考え方で、大事な考え方。観光事業者だけでなく地域、そして旅行者も含めてみんなフェアなリターンが取れる考え方。そこにぐっと世界の観光が本気になって動いている。2日前だと思うが、フランスでは、列車で一定時間で行ける距離については飛行機が廃止になっている。パリでは3路線が廃止になっている。オーストリアでも同じようなルール。ステークホルダーツーリズムが本当に動き出している。ここにいる私たちの組織体は、実はステークホルダーツーリズムの理想的な姿を目指しているメンバー。結果を出さなければいけないが、結果を出せば日本からも世界からも注目されるモデルになるはず。そうした意味で参加をさせていただいているし、皆さんと共に2019年モデルではない、新しい観光のモデルを作っていくことに全力で頑張っていきたい。

中野委員代理 協会では、毎年8月13日に関門海峡花火大会を開催させていただいている。今後もお付き合いさせていただくエリアになるので、こうした素晴らしい会に参加させていただき、感謝。良いまちになるようご協力させていただけたらと思う。

山口委員 これまで海峡エリアは商店街にとって、近くて遠い場所だった。今回のプロジェクトを通じてしっかりとつながっていききたい。

梅川委員 おそらく日本初となる、観光まちづくり学部の立上げをこの3年間進めてきた。全くのよそ者であるが、少しでもお役に立てるよう頑張りたい。

杉浦委員 学識経験者としての参加であるが、地元市民の一人としてワクワクしている。地元の人が楽しく参加しないといいものにならないと思うので、楽しんで参加させていただきたい。

4. あるかぼーと・唐戸エリアマスタープランの概要

下関市北島副市長より、資料2に基づきマスタープランの概要を説明（説明の詳細は議事録では割愛）。以下審議。

前田委員長 マスタープランを提案いただいた星野委員より一言いただきたい。

星野委員 最初に携わらせていただいて思ったことは、海峡という特殊な環境。特殊な環境はイコール魅力であり、なおかつ列車・飛行機のアクセスは、世界の多くの観光地の標準に比べれば決して悪くない。これを踏まえ、3つの集客の構造を考えている。①地域。福岡・広島を含む地域からの集客。②日本の大都市圏も諦めてはいけない。日本の観光消費額28兆円の8割はいまだに国内市場。どうやったら首都圏を含む大都市圏から集客できるか。そして③インバウンド。長期的に考えると人口減少イコール観光客の減少なので、当然ながら減っていく部分を観光産業としてはインバウンドに依存せざるを得ない構造。インバウンドがどのくらい成長を見込めるかが重要。日本のインバウンドの課題は、東京・大阪・京都・北海道・沖縄 トップ5の都道府県で日本のインバウンドの65%を取ってしまっている。トップ10で80%。非常に言いにくいですが、ボトム3が高知と福井と山口。3つで1パーセント。しかし、海峡というこれだけの魅力があるので可能性はあり、下関だけでなく山口県の魅力をしっかり出していくことはインバウンドにとってもすごく大事なことです。そうした視点を踏まえて、マスタープランを作ってきている。

すぐ長期のプロジェクトだが、ぜひウォーターフロント開発でアジアを代表する場所になり得る、その際のリターンは大きい、地域・雇用・人口へのインパクトは大きい。ぜひそういう視点を忘れず、妥協することなく、長期的に夢のある未来を目指してもらいたいというのが願い。また、その際に出来ることを提供していきたい。

5. あるかぼーと・唐戸エリアマスタープランの推進体制について

下関市前田エリアビジョン室長より資料3及び資料4に基づき、推進体制等について説明（説明の詳細は議事録では割愛）。

以下審議。

前田委員長 ただいた説明のあった、あるかぼーと・唐戸エリアマスタープランデザイン会議設置要綱案を踏まえ、あるかぼーと・唐戸エリアマスタープランデザイン会議の設置について、質問等あるか。

（特になし）

前田委員長 ないようですので、このあるかぼーと・唐戸エリアマスタープランデザイン会議の設置について承認するというところでよろしいか。

（一同異議なし）

前田委員長 ありがとうございます。承認することとする。

6. 今年度の取組内容及び関連事業について

下関市前田エリアビジョン室長より、資料5に基づき、「有限会社ハートビートプラン・カイキョーエリアマネジメント共同事業体」（以下、「共同事業体」）について紹介。

共同事業体 吉田氏 私たちは一昨年、公民連携で実施した「カイキョソトアソビ」に携わったメンバーを中心に、本年度まちづくり会社としてカイキョーエリアマネジメントを立上げ、やりたいことは社名に表現しているので詳細は割愛する。そしてこの度、ハートビートプランと一緒に共同事業体を組み、プロポーザルに応募、現在優先交渉権者として選定いただいているところ。

この事業の推進の上で私たちが一番大切に思っていることは、いかに公民が連携してプロジェクトを推進、成し遂げていくか。公民で事業を推進することは、なかなか高いハードルであるが、超えていく必要がある。そのためには、一つは、公民それぞれが共通言語を使いながら議論をしていくこと。これからたくさんの専門家に入ってもらう中で、専門家の皆さんと同じ言語を使えるように私たちが成長していくことが不可欠。そして、下関の中にいる、まちづくりに携わりたくさんの人たちと共通言語をしっかりと作りながら進めていきたい。

その共通言語を作り出すにはビジョンが必要。そしてそのビジョンは、「下関を日本一のウォーターフロントシティにする」ということだと思っている。このビジョンをもとに共通言語を生み出し、民間と行政がしっかりと連携できる体制を作りたい。具体的な推進体制については、木村より説明する。

共同事業体木村氏より、資料 6 及び資料 7 に基づき、具体的な推進体制及び今年度業務について説明。続けて、下関市北島副市長より、資料 8 に基づき、下関市の練和 5 年度関連事業について説明（説明の詳細は議事録では割愛）。

以下、審議。

H 委員 観光協会の会長としてお願い。デザイン会議の中でワクワクすることがたくさんあると思うが、是非景観や史跡等の表面だけでなく、むしろ精神的なもの、心、想いというようなものをエリアマネジメントやデザインに入れていただきたい。関門海峡は日本一のパワースポット。海というのは莫大なエネルギーが詰まっている。そしてそれが世界につながる。関門海峡はその中で 700メートルに及ばないような「くびれ」である。しかも、潮の流れが一日に 4 回変わる。いうなれば砂時計を 4 回ひっくり返したくびれが関門海峡ということ。従ってそこで、今まで公家社会から武家社会へのきっかけとなった壇ノ浦の戦いとか、武家社会から民主社会になった維新も関門海峡が舞台。そういう意味で、様々な想いや心や元気になるものが詰まったところであり、文書に表すのは難しい部分かもしれないが、デザイン会議の皆さんに是非そういう想いを持って議論してほしい。

よく観光客の皆さんにそういう話をすると、げんきになりました！という感想をいただく。癒されるだけでなく、元気になるということも入れていただければと思う。

下関市北島副市長 歴史・文化を大事にする、それに沿った良いご指摘をいただいた。今後、事業者とともに検討していきたい。

前田委員長 景観を売りに話をしてきたが、それだけでない魅力、歴史と想いというところについて、非常に良いご意見をいただいたと思う。しっかりとデザイン会議の中で検討してほしい。

G 委員 最初に「妥協しない」ということが大事と申し上げた。時間がかかっても良いので、良い、競争力のある形で少しずつでも良いので進んでいくことが大切である。そういう意味では、先ほど市からご発表いただいた（令和 5 年度関連事業の）中で、4 番目（エリア内の施設整備）、こういう風にどんどん決まっていきがちである。民間の資本力・経営力を生かしていくことは重要であるが、マスタープランというのは全体の計画のコーディネーション、それぞれの地域にそれぞれの役割を担わせているから、全体として利用者に心地よく魅力を感じてもらえるはず。

なので、A 地区も行政の日程があって淡々と進めていくこともわかるが、内容面でマスタープラン全体で意図していることを踏まえる。A 地区というのは中心の場所であり大事である。ここがコケると全部コケる。なので、日程ありきというよりも、せっかくマスタープランを作ったわけなので、それぞれの地区がそれぞれの役割を担える事業者、また役割を担える提案が出てくるように広く声をかけてほしいし、良い提案が出てきてやる気のある、または資本力がある事業者を選定できるプロセスをしっかりと踏んでいこうをお願いしたい。時間をかけても良いので、必要なコンポーネントを積み重ねていこうをお願いしたい。

前田委員長 タイムスケジュールありきでなく、じっくりと良いものを作るべく積み重ねていこうご意見、ありがとうございます。

F 委員 G 委員のご指摘の延長になるかと思うが、エリアマネジメント組織が重要と思う。マスタープランができて、その想いを含めて継承していく。これをなるべく早く立ち上げて、マスタープランエリア全体を早めに管理するような仕組みが重要。説明では、いつ、というところはあまり見えなかったが、財源の問題も含めてできるだけ早く立ち上げることが重要である。

前田委員長 スピード感を持ってということと思う。

7. 意見交換

前田委員長 全体を通した意見等あればぜひお聞かせ願いたい。

B 委員 資料6の実施体制、地元の方だけでなく、色々な方が集まって、地域外の方や若者が集まっている組織になっている。ぜひ柔軟な考えで妥協せず。地元がこうだから、でなく、むしろ外から違った意見をどんどん受け入れてワクワクするようなプランを作ってほしい。

G 委員 世界の最先端事例を学ぶことが重要。それがビジョンを描くことになる。日本を代表するウォーターフロントシティというときに、世界で今、一番評価されているウォーターフロントシティってどこだろうという事例を見ることが大切。そうすると、この推進会議・デザイン会議の関係者の目線や価値観、使う言葉が揃って、あの場所のあのことを言っているんだなということが分かってくる。下関の文化や歴史等も大事だが、同時に、新しく目指す姿は絵にかいただけではわからない面があるので、年間の活動の中で世界の事例を見聞きする、学ぶ、その人を招いて話を聞く、それにより中長期的に共通のビジョンが描けると思うので、ご検討いただきたい。

前田委員長 グローバルな視点からのご意見。昨年7月にシドニーを訪問したが、ずっと意識していたのは、行政の立ち位置について、どんなポジションを取れば事業が進んでいくか、事業の採算性も含めて実現していくか、ここが本当に肝だと思うし、その部分は私が責任をもって、議会の皆さまのご理解も得ながら、長い事業になるが腰を据えてやっていきたい。

以上